

題目 善意と悪意のペイ・フォワードに関する研究：実験的検討

氏名 熊谷 迪

指導教員 竹澤 正哲

「恩送り」とは、自分が誰かに親切にされた経験から、全く関係のない第三者に対して親切にするという行為である。また、一方で「八つ当たり」という、自分が誰かに嫌なことをされた経験から、全く関係のない第三者に対して嫌なことをするという行為も存在する。恩送りや八つ当たりのような、他人から受けた気持ちや行動を別の他人に送る行為は、ペイ・フォワードと呼ばれており、現実社会において様々な形で存在するとされている。本研究では、このようなペイ・フォワードに焦点を当て、現実的な状況に即した実験場面においてペイ・フォワードが観測されるか、また人々がどのような感情を抱いてペイ・フォワードを行うのか検証した。本研究においては、**Bartlett & DeSteno (2006)** を参考にし、この研究ではふれられていなかった悪意のペイ・フォワード（八つ当たり）について検証する条件を追加し、実験を行った。実験デザインは、参加者を助ける条件、助けない条件、統制条件の3条件を参加者間に設定し、他人から善意・悪意をもって接された人々が、第三者に対してどのような行動をとるか検証した。当初の予測は、助ける条件において恩送りが、助けない条件において八つ当たりがみられるというものであった。実験の結果、当初の予測と異なり、参加者を助けない条件において、助ける条件よりも恩送りがみられるという結果になった。また参加者の感情については、条件間で差は出なかったものの、課題への負担感を抱かなかった参加者ほど感謝の念を抱き、恩送りをすることが示唆された。感謝という感情が恩送りに関係しているという結果は、先行研究である **Bartlett & DeSteno (2006)** とも一致するものであった。一方で、助ける条件より助けない条件において恩送りがみられたという結果が得られた原因としては、条件操作が、実験者が意図していなかった効果をもたらした可能性が考えられる。そしてこの際、参加者は今回の事後質問紙では尋ねていなかった何らかの感情を抱いて恩送りを行った可能性がある。今後の研究においては、さらなる厳密な実験状況の設定を行い八つ当たりのような悪意のペイ・フォワードが起こるか検討すること、また事後質問紙等で様々な尺度を使用するなどして、ペイ・フォワードが起こる際の参加者の感情を探っていくことが望まれる。